

2017年度 第1回 看護部会 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2017年6月12日（月） 15:00～16:20

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 浴森 公子 岩国市医療センター医師会病院、看護部長

白銀 優子 岩国中央病院 総看護部長

村岡 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長

福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐

沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長

江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科長兼副校長

進行： 福水 美恵

記録： 矢野 結花

I. 報告事項

1. 2017年度学科目標について

1) 保健看護学科目標について

資料にもとづき江見より説明を行った。

入学前研修（天風録の書き写し、数学・化学の講義）を行ったことを追加説明した。

<委員からの意見>

・中学1年生に対する職業講話に病院から看護師が出向いている。中学2年生では職業体験もしている。中学生2年生のキャリア（看護教員を体験してみませんか？）の取り組みは、別の方向からの職業選択になる。

・委員さんが、関わっている小学校でいのちの大切さについて話をしている。妊婦体験などを行い看護の仕事の大切さをわかってもらえるといい。

⇒高齢者体験などを通して、どのように看護師の卵を育てているかを知ってもらう。

・天風録の書き写しもよいが、看護協会から出ている「忘れられない看護のエピソード」を読んでもらいどう看護をとらえるといいか考える材料として使うのはどうか。

⇒文章が書けないので、表現力をつけることや時事問題を知ってもらうという意味もあり天風録を使っている。「忘れられない看護のエピソード」は「看護の心を誓う日」などに使用できればと思う。

・退学者が出るというのは、単位がとれないということか、それは勉強しないためか。

⇒そうである。単位を落とした科目が増えると留年となる。2年生をしながら、1年生の科目の履修をすることはかなり大変である。学生の中には、経済面、精神面、コミュニケーションが難しいなどで退学するケースもある。

⇒2年生は、これからの基礎実習を楽しみにしている。しかし、人から言われるのは好まず、言われると実習が嫌になってくる。そのような学生に、どのように興味を持ってもらうかも課題である。

科目試験では、これまで、試験の1日前から3日前に勉強するようになったと言う学生もいる。

・人の思いに思いをはせる事がない。また、思考が短絡的、画一的な学生が多い。

・6月9日（金）から始まった「YYカフェ」の説明を行った。

2) 看護学科目標について

資料にもとづき矢野より説明を行った。

2. 教育課程の内容と特色の報告

1) カリキュラムについて

資料にもとづき学校指定規則上の単位と本校の単位の相違点、特色について福水より説明を行った。

2) 保健看護学科 教育課程の特徴と工夫について

資料にもとづき江見より説明を行った。

<委員からの意見>

・どのようなボランティアに参加されているのか。

⇒学校に募集がきているボランティアのうち2016年度は42団体に309名が参加している。

(例：施設の行事やマラソン大会の救護など)

3) 看護学科 教育課程の特徴について

資料にもとづき矢野より説明を行った。

<委員からの意見>

・英会話の授業2単位の履修について、英会話ができると岩国では外国人の方が入院することもあり助かる。

3. 看護師・保健師国家試験出題基準の改定内容について

資料にもとづき江見より説明を行った。

・国家試験の合格率をあげるための努力をしなければならない。どのようにして合格率をあげるかについて教員全員で取り組んでいる。

・11・12月から国試対策のための補講を行っている。

・国試の傾向として総合判断力が求められるものが多くなっている。

4. その他

<委員からの意見>

・保健看護学科と医療秘書学科の合同授業で基礎分野の文学を一緒に学ぶようになっているがどのようなことを学んでいるのか。

⇒両学科に必要な国語表現について学んでいる。

・今後医療関係職種などで、基礎分野を一律に学んだ上に専門科目を学んでいくと言われているが経過はどうなっているか。

⇒まだ方針は決まっていない。

・また、職種によって使う用語が違うので理解しにくいという課題がある。

2017年度 第2回 看護部会 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2017年12月13日（水） 15:00～16:40
場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室
出席者： 浴森 公子 岩国市医療センター医師会病院、看護部長
白銀 優子 岩国中央病院 総看護部長
村岡 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長
矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科長兼副校長
進行： 福水 美恵
記録： 江見 享子

報告事項・協議事項

1. 2017年度 学科目標

保健看護学科（別紙資料に基づいて江見より説明）

・今年度の入学生の人数は

⇒ 38名で入学し、1名退学のため現在は37名となっている。退学理由は、看護を志望したのは親であり、自分はそれほど魅力を感じる職業ではなかったことと、友人関係がうまくいかなかったことをあげている。

全体の傾向として、入学試験のときは看護師・保健師になりたいと言っているが、入学後動機があいまいな学生が多い。また高校での数学・化学など選択科目がバラバラであり学習面で困難を感じる学生もいる。

・中学生を対象としたキャリアウィークスタートを今年8月に実施している。今後年齢を下げて小学生を対象として考えてはどうか。将来の職業を決めるのは、小学4年生ともいわれている。小学4年生で職業を決め、そのために自分はどうすればよいかを目標を決めていくようだ。例えば、徳山中央病院では小学生の親子を対象に、夏休みに親子病院体験をしており、評判も良いようだ。

中学1年生で職業講和、2年生で職業体験をしており、岩国市医療センター医師会病院でも8～10人/年の参加がある。

・子どもだけでなく、高校教師の看護教育に対する理解を促すことも必要ではないか。山口県の看護協会からも高校に出向いて説明はしているようであるが、高校教師は看護教育制度についての理解が不足しているように思う。

⇒ 地域貢献協議会の教育部会で平田中学校の校長にも協力をお願いし、職業講和など出前授業などをさせていただければと考えている。

・臨地実習などでは、現在も領域別実習の指導をするなかで、実習がなかなかすすまない学生にどのように指導するのがよいのか、指導者も悩みはあるようだ。

⇒ まず、生活体験や対人コミュニケーション（異世代）の経験が少ない学生に、実習前にどう生活や対人関係へのイメージ化をしていくのか、実習でどこまでを求めていくのが課題である。

- ・地域貢献の一つとして、「認知症カフェ」を行っているが、これは病院看護も参加できるか。認知症ケア加算の関係からも、研修にだしたりしているが、直接の経験もできればと思っている。

⇒ 参加費は100円で、誰でも参加できる。

看護学科（別紙資料に基づいて矢野より説明）

- ・現場でも学生の主体性を育てたいと思うがなかなか難しい。病棟にはマニュアルや標準計画などあるが、そこを基に自分で考えて看護をしてほしいと思っている。しかしすぐに人に依存して、わからないと「教えてくれなかった」という傾向にある。

⇒ それは全体の傾向でもあるが、思考プロセスが重要ということでこれから大学入試もマークシートだけでなく文章問題も加わり変化していく。

- ・小学校から指示待ちで育ってきているということもあるが、家庭環境も大きいのではないか。
- ・アルバイトはどの程度しているのか。

⇒ 経済的なこともあるが、学科としては週1回くらいにしてほしいと言っている。アルバイトを多くしている学生は、学校でも授業中に寝ていることが多く、成績が良くない。学生には学業を優先して欲しいと指導しているが、なかなか難しい面もある。

職業実践専門課程の認定を受けていることもあり、雇用保険に入って2年以上などの要件はあるが授業料はほとんど給付される。しかし、生活費は出ない。

岩国市医療センター医師会病院でアルバイトの募集はあるのか。

- ・地域包括ケア病棟にもなり、介護福祉士が入っているので、現在のところは募集していない。

- ・看護学科でも退学者はあるのか。

⇒ 看護学科の学生は准看護師の免許ももっており、目指す目標はもっているが、指導から逃げていく。

レディネスとして衛生看護学科卒、養成所卒・社会人経験をもっている学生と年齢・経験が様々である。今年度退学は4名あった。そのうちの1名は他校を退学後に入学した学生であった。精神面での問題から退学となるケースもある。

学習面では、学内でも細かな指導が必要であるが、今後准看護学校との連携をとり教育をしていきたいと考えている。

2. 入学前スクーリング（保健看護学科）について（別紙資料に基づいて江見より説明）

- ・スクーリング科目の中に生物は必要ないか。

⇒ 入学した学生をみていて、数学・化学・物理の理解度に大きな開きがあり、初歩でつまづいていることもあり、この3教科とした。生物などは、解剖生理学の進路にも合わせて学科の教員がフォローしていこうと考えている。

看護学科は、資格認定試験も控えており入学前のスクーリングは行っていない。また介護福祉学科は、職業委託訓練生などは3月になって入学試験を行い合否が決定するためスクーリングは行っていない。医療秘書学科については、保健看護学科とほぼ同じ日程で行う予定ではあるが、学習というより少し入学に向けて楽しい企画を考えている。

3. 国家試験への取り組み

別紙資料に基づいて矢野・江見より説明

4. 育成人材像の検討

- ・職業実践専門課程の認定をうけていることもあり今、育成人材像を明確にしていくことが求められている。本校ではカリキュラム申請時に「卒業生の特性」や「期待される卒業生像」として考えていたが、統一した「育成人材像」として、外部への公表できるものを検討している。

2017年度 第1回 医療秘書学科 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2017年6月5日（月） 15:30～16:40
場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室
出席者： 山崎 幹 医療法人社団千寿会 岩国第一病院 事務部顧問
末田 幸一 医秘法人社団 小林耳鼻咽喉科医院 事務長
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問
村中 秀子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 医療秘書学科 学科長
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長
進行： 福水 美恵
記録： 沖島 均

配布資料： 1) 2017年度授業概要（シラバス）1年次・2年次
2) 2018年度岩国YMCA国際医療福祉専門学校入学案内一式
3) 「国語表現」合同授業について（アンケート回答）

議題

1. 報告事項

1) 2017年度カリキュラム変更後の現状報告

『楽しく学び、感性を磨く』

①シラバスの内容（別添 シラバス）

- ・2017年度からカリキュラムを大幅に見直し、新カリキュラムを導入して2ヶ月が経過した。ただし2年生は旧カリキュラムでの運用のため、1年次と2年次のカリキュラムの主な変更点について、村中学科長より説明があった。新カリキュラムの科目表記について授業の内容が分かりやすいように工夫した。

②新授業科目導入（秘書実務、就職実務）

- ・新科目の秘書実務と就職実務の授業内容について村中学科長より説明があった。

③合同授業（国語表現）

- ・今年度から新科目として国語表現を導入し保健看護学科と合同授業を行っている。医療秘書学科の学生たちは保健看護学科の人数の多さや雰囲気に戸惑う学生もいるが、概ね好評のようだ。学生たちの感想をまとめたアンケートを見ながら村中学科長より説明があった。合同授業は学科間交流にも繋がり、授業以外でも学生間の交流が見られる。医療秘書学科の学生にとって良い刺激になっていると思われる。
- ・①～③までの説明終了後、村中学科長から、今回のカリキュラム改正は授業内容のダブリを解消し、目指す資格を絞り込み、総授業時間を減らすことで学生たちの余裕を生んでいる。学生たちが秘書実務等の授業を通して、感性を磨き楽しく学べる環境づくりを目指していることが説明された。
- ・総授業時間が減ったため、その時間を活用してボランティア活動（月1回、商店街の清掃活動）に取

り組んでいる。学生たちはSHRの時間をつかって朝読をしているが、先日読書感想文を提出し内容を確認したが、例年よりレベルが上がっている。これは国語表現の授業の影響があるのではないかと感じている。

- ・委員からは、医療秘書学科で取得できる資格の価値を上げる必要性があるのではないかという意見が出た。例えば、メディカルクラーク取得者を雇用することで、診療報酬に反映されるよう国に働きかけることも必要ではないかという意見も出た。最近では眼科でドクターズクラークを雇用しているケースが増えてきている。
- ・委員からは、カリキュラムの中でICT技術の活用を検討したらどうかという意見が出た。

2. 審議事項

1) 岩国YMCA国際医療福祉専門学校医療秘書学科と他校との違いの差別化について

- ・職業実践専門課程の認可を受けている学科のメリット（専門実践教育訓練給付金制度など）をアピールしていく。
- ・岩国YMCA国際医療福祉専門学校の認知度を上げる必要がある。医療機関の方に学校（学科）の存在を知ってもらう。岩国市医師会メンバーにも学校の存在（特に医療秘書学科）は知られていない現状がある。
- ・病院等に学校のパンフレットを置いても見てもらえない。卒業生が働いている病院の医師の口から学校の紹介（PR）をしてもらうのが一番効果があり、認知度も上がっていく。早めに卒業生がいる病院を訪問し、医師から情報を集めていくことが求められる。
- ・就職内定率のアップと離職率ダウンが他校との差別化につながるのではないか。
- ・他校との大きな違いとして本校の実習内容の豊富さが挙げられる。事務部だけの実習体験ではなく、検査室、病棟などでも実習（見学）体験が可能である。
- ・情報の見える化が必要であり、視覚に訴えることが大事である。例えば、学校新聞（広報誌）を医療機関に送って読んでもらうことも必要ではないかという意見があった。

以上

2017年度 第2回 医療秘書学科 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2017年12月11日（月） 15:00～16:30

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 山崎 幹 医療法人社団千寿会 岩国第一病院 事務部顧問
末田 幸一 医秘法人社団 小林耳鼻咽喉科医院 事務長
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問
村中 秀子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 医療秘書学科 学科長
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

進行： 福水 美恵

記録： 沖島 均

配布資料： 1) 医療秘書学科2017年度活動報告（別紙1）
2) 2017年度カリキュラム（別紙2）
3) 選択科目について（別紙3）
4) 岩国YMCA医療秘書学科だより（V o 1 . 1）

議題

1. 報告事項

1) 2017年度学科活動報告

- ・村中学科長より今年度の学科活動報告（途中経過）があった。別紙資料参照のこと。学生支援の面では気になる学生がいた場合、その都度個別相談を実施した。また2年生対象の三者面談においては2年生全員の保護者が参加してくれた。
- ・資格検定の面では、7月に受験したドクターズクランクでは2名の不合格者が出たが、11月に再受験し結果待ちである。メディカルクランクについては13年間合格率100%を継続しており、今年も100%合格を目指している。
- ・広報活動の面では高校訪問に力を入れた。在校生と一緒に5校の高校を同行訪問し、高校側には大変好評であった。今後も時間を見つけて継続していきたい。
- ・ボランティアの面では、今年度から毎月1回本通商店街の清掃活動に取り組んでいる。事前に本通商店街理事長の承認と本通商店街役員会の了承も得ており、地域貢献の一環となっている。
- ・地域交流の面では、今年6月から毎月1回開催しているYYカフェ（認知症カフェ）に学生たちやトーチタイムサークルのメンバーたちが参加し、地域の方たちと交流を深める機会がもてている。

2) 就職内定状況報告

- ・来春卒業予定者10名に対し就職内定者は2名。現在、3週間のインターンシップに出ており実習終了後に、数名の学生は内定をいただけそうである。最終的には就職内定率100%を目指している。

3) 医療秘書学科だよりについて

- ・前回の教育課程編成委員会が出た意見を反映し、年4回発行の医療秘書学科だよりを作成することになり、9月に第1号を発行した。岩国市内の病院等に「YMCAブック」と一緒に発送を済ませた。第2号は来年1月発行予定である。取り上げてほしい情報等があれば村中までお願いしたい。

- ・委員からは年4回発行の計画をきちんと立てて実行することが肝心であるとの意見が出た。その他にも現在学生たちがインターンシップに行っているので、その体験談を掲載したらどうか。また具体的な病院名までは掲載しなくても良いと思うが、就職先リスト（病院何名とか、調剤薬局何名とか）を掲載したらどうかという意見が出た。
- ・他の委員からは本校学生を雇用してみて初めて学生の実力等に気付くことがあるとの意見があった。また2年間学習した学生たちの実践力を感じるし、人間的にも高い評価をしているという意見もいただいた。授業終了後に、医療機関でアルバイトを積極的に行い、経験を積ませることも必要ではないかという意見も出た。

2. 審議事項

1) カリキュラム変更に伴う効果について

- ・村中学科長からカリキュラム変更について説明があった。資料は別紙参照。今回カリキュラム変更をしたことで授業内容のダブリを解消することができた。また変更に伴う効果の具体例としては、ビジネス文書Ⅱの科目を新設したことでこれまでは3級止まりだった資格が2級まで目指せるようになった。それ以外にも一定の効果が見られている。

2) 選択科目について

- ・村中学科長から選択科目について説明があった。資料は別紙参照。現在の1年生が対象となり、実際は2年生から選択科目の授業が始まる。授業開講人数は5名以上に設定している。今後も学科が目指す将来像（目標資格）を考慮しながら選択科目の内容も検討していく。
- ・学生たちが科目を選択する際、科目の内容を詳しく説明し履修の仕方をアドバイスするようにしている。また委員からは、科目選択をした結果、どういった効果があったのか、検証も必要ではないかという意見が出た。
- ・委員からは、授業科目として「医療用語」の必要性はないのかという意見が出た。また最近は様々な略語があり、略語の意味をしっかりと理解し注意することが医療現場に求められているとの話がでた。

以 上

2017年度 第1回 介護福祉学科 教育課程編成委員会

日時：2017年6月16日（金） 15：00～

場所：岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階会議室

出席者：山永 則宏（特別養護老人ホーム光葉苑 施設長）

半田 達也（介護老人保健施設みどり荘 事務長）

福水 美恵（学校長特別顧問） 沖島 均（当校事務長）

佐々木 洋子 三宮 希美

I 報告事項

1. 2016年度実習指導者会議の報告

- ・2017年3月16日（木）午前中に介護実習Ⅰ通所系の会議を開催（出席：8施設8名参加）
2017年度の高齢者通所系実習より、評価表を変更について連絡
- ・午後に介護実習Ⅰ・Ⅱ施設系①②③の会議を開催（出席：12施設14名参加）
レクリエーションの実施については施設系①の実習のみ行うことを連絡
実習指導者会議を通所実習と施設実習と分けたことで具体的な問題や対策について話し合いを
することができた

2. 2016年度山口県福祉・介護への理解促進セミナーについて実施・評価報告（別紙1）

すべての講座で講義と実技両方を行った

参加者のアンケート結果は講座の満足度が高く、講義・実技の両方を実施したことが満足度に繋がったと考える

いずれは毎月公開講座を行い、地域に貢献できればと考えている

3. 就職状況（別紙2）

岩国市への就職がほとんどとなり地域への貢献ができている

しかし、全体の学生数が減っている状況

4. 今年度学生状況（別紙2）

山口県介護福祉士養成校の学生状況（別紙3）

どこも就学資金制度を利用している学生がほとんどであり、制度の継続を県にお願いしている
一般の学生が少なくなっており、職業委託訓練生が増えている状況

5. 介護福祉士国家試験受験の動向（別紙4）

今年度の2年生より一斉の国家試験受験の予定とされている

2年生はSHL等の時間を活用しながら、国家試験対策を行っている

6. 介護福祉士修学資金について（別紙5）

国からの制度は手厚くなっている

II 審議事項

1. 2017年度山口県福祉・介護への理解促進セミナーについて（別紙6）

①今年度の予定について

- ・移乗介助について、腰痛予防の内容を入れる

⇒腰痛予防について、国から施設の対応も義務付けられており、セミナーの中に入れてほしいと要望があった

・「介護の日」のPRについて、今後も検討する

⇒今年は土曜日であり学校だけでなく施設も一体となってイベントができればと考えている
学校では、当日に岩国のフレスタモールでの活動を考えている

11月を「介護月間」のようにし、様々なところでイベントを行うようにするといいいのではないだろうか

・認知症ケアセミナーについて、キャッチコピーを検討する

⇒認知症ケアだけではどんな内容かわからないので、詳しい内容をキャッチコピーにする
内容は、昨年度と同じく演劇のワークショップを行いながら講座を予定している

②施設への案内方法等について

・職員個人で申し込むのではなく施設での申込書を作成し、施設単位での募集を行うこととした（施設職員に講座に参加してもらうため）

・講座の予定が確定次第、早目に施設へ知らせてもらえたら施設から出勤という形で職員が参加できるようにすると話があった

・職員の参加状況を把握するため、参加後のアンケートに所属（施設）について記入欄を作る

2. 地域貢献について

・岩国への就職、認知症カフェへの参加、公開講座、夏祭り等施設へのボランティア等に参加している ⇒施設の要望にもできる範囲で応じていきたい

・学校の設備を活用して、学校での研修等を考えてみてはどうか ⇒今度も検討していく

・「イカルス」という岩国市の生涯学習市民講座の講師として登録してはどうだろうかと思いを頂いた（別紙参照）

・地域貢献協議会の開催を検討している

3. 施設研修会への講師派遣について（別紙7）

今後も施設から要望があれば、検討して講師派遣を行っていく

4. その他

・山口県キャリアアップ支援事業（別紙7）について、学校でどんな支援事業が行えるのか県に申請を出している ⇒申請が通り次第、施設にお知らせをする予定

・認知症カフェを共催した「さくら草の会」は、地域で活動されており発信力を持っているわいわいカフェの特色は、高齢者同士のサロンとは違い若い学生と関われること
学校へ来てもらうことで、岩国 YMCA についても設備等知っていただける
開かれた学校になるため、いろんな機会を通じて学校を知ってもらう（7月も実施予定）

・山口県老協のデータ「介護職員として働く A さんの10年間の年収」

老協に入っている施設や、事業団職員の年収を平均したもの

データを高校訪問時などに活用してもいいか、老協に山永さんが確認して下さる

・地域の人に学校を知っていただくために、「イカルス」という岩国市の生涯学習市民講座の講師として登録してはどうだろうか

2017年度 第2回 介護福祉学科 教育課程編成委員会

日時：2017年12月21日（木） 15:00～

場所：岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階会議室

出席者：山永 則宏（特別養護老人ホーム光葉苑 施設長）

半田 達也（介護老人保健施設みどり荘 事務長）

福水 美恵（学校長特別顧問） 沖島 均（当校事務長）

佐々木 洋子 三宮 希美

I 報告事項

1. 就職状況 別紙参照

- ・高卒者はほとんど就職先が決定し、就職決定者の約半数が実習施設への就職となっている
- ・職業委託訓練生の中で、就職先が決まっていない学生が数名おり、現在活動中

2. 2017年度実習指導者会議開催

日時：2018年3月15日（木）

介護実習Ⅰ通所系・介護実習Ⅱ施設系①②③に分けて会議を開催予定

情報交換やお互いの課題について話し合う

来年1月に施設に案内文を送付する予定

3. 2017年度山口県福祉・介護への理解促進セミナーについて 別紙参照

次年度も引き続きセミナーの開催を考えている

II 審議事項

1. 2018年度山口県福祉・介護への理解促進セミナー案について

・テーマ案について

介護福祉施設の自己点検表に、外部研修への参加という項目がある

施設としては、出張として参加させられるようなテーマがあると職員に勧めやすい

①排泄ケア

平成30年度の介護報酬加算改定があり、自立支援に基づいた排泄ケアが特養・老健ともに評価の対象となる

加算に関するところはどの施設も関心があり、職員を出張扱いで参加させやすい

③アンガーマネジメント

県からの施設の自己点検表に「虐待・身体拘束」についての項目があり、そのためにアンガーマネジメントの研修を行いたいと思っている施設が多い

施設で虐待に繋がるのではという不安や、職員の精神的なフォローを含めての内容はどうだろうか

「虐待・身体拘束」というキーワードがあると、職員を出張扱いで参加させやすい

②生活リハビリ

自立支援・重度化防止についても加算の対象となる

生活の中で行えるリハビリについては、通所・入居施設ともに関心が高い

④レクリエーション

笑うことでナチュラルキラー細胞を活性化し、身体のバランスを整える効果がある

・セミナーの広報について

山口県デイサービスセンタ協議会のHP、岩国市社会福祉士会のメーリングリスト、老健協でのお知らせをしていただけることとなった（1月13日のセミナーから）

・開催時間について

日中にセミナーがあると職員を参加させることが難しいため、夕方に開催してもらえると興味のある職員が参加できるのではないだろうか

毎回は難しいが、ウィークデーの夕方など18:00~19:30あたりで検討する

2. 次年度聴講生制度について

次年度から学校で開講している授業の中で、一部の時間割をオープンにして参加してもらう聴講生制度を考えている

学校としては、施設研修の延長線上と考えて参加を促してほしい

・科目について

①生活支援技術Ⅰ～Ⅲ

校内の教員が担当しており、職員にも興味を持ってもらえるのではないだろうか

②医療的ケア

特養の加算要件として、夜勤に入る職員が医療的ケアの資格を持っているというものがあり、各施設とも関心が高い内容である

基礎研修を受講するのに、県のものに参加するよりも近場で通いやすいのではないかと

資格を取得した職員が辞めることもあり、常に育成する場があると施設としてありがたい

次年度はまず医療的ケアを聴講科目として行ってみたいかどうか

③福祉住環境コーディネーター

資格取得のための授業は、施設・職員ともにメリットがある

・費用について

施設からの費用で職員に参加してもらう場合、その授業を受けたメリットが施設にどれくらいあるかによる

学校では、90分1,000円を検討している

・広報について

福祉・介護への理解促進セミナーと同様にお知らせをしていただけることとなった

3. 学生確保について

・高卒者について

核家族化で高齢者と接したことがある学生が少なく、介護に興味を持ちづらい状況である
市内の学生が外に出ていく状況が続いている

文科省は、中学2年生を対象としてキャリアスタートウィーク（職業体験）、職業講話などを進めている

中学生は夏休み部活や学校行事など忙しく、早めに計画をしないと日程調整が難しい
最近では小学4年生からの職業体験が必要だと言われている

- 岩国市でも各施設へ小学校から見学・体験に来てもらったり、施設から講習に出向いたりして介護に関心を持ってもらい、将来的に職業として選んでもらえるようにしている
- 施設へ県からヒアリングがあった
学校としても、地域貢献も含めて夏休みに地域の小学生を介護入門として受け入れることができると考えている。
- 少子化が進む中で、職業で学生の奪い合いとなっている状態
- 施設へ見学や体験に来てもらう際も、介護に興味や関心を持ってもらうために、どの場面を見てもらうのかも考えなければいけない
また、高卒で施設へ就職した学生（初任者研修受講）が、就職後2年間学校で学ぶことができるように支援してもらいたい
施設からの推薦をしてもらえれば、介護福祉士取得者の数も増え、施設の質の向上につながるのではないかと
- 今年度卒業生より国家試験の実施が始まるが、受験生は合格率によって学校を決めている現状がある
- 職業委託訓練生について
他の職業訓練を受けた人は、一定期間次の職業訓練を受けることができないこととなっている
「暮らし応援生活自立センター」より、施設へ一般の仕事が難しいので介護の仕事はどうかと施設に問い合わせがあるが、一般の仕事が難しい方が働くのは難しい状況である
- 実務者研修は県から全額補助が出て、資格取得後3年間県内で働けば返済の義務がないが、国試受験の要件に実務者研修受講が加わり、働きながら国家試験を受験する人の人数が減っている
- FTAの介護留学生について、一番困るのは経済的な問題である
和歌山県では、施設が職業委託訓練生のような費用の負担をし、卒業したら施設へ就職という制度もある
山口県では、対象者がいるかわからない状態
広島県では、e-ラーニングで日本語を勉強して介護福祉士の勉強をしてもらっているところがある